

=====

2018 未来のマナビフェス-2030 年の学びをデザインする

=====

この夏、8月9日・10日の2日間「2018 未来のマナビフェス-2030 年の学びをデザインする」

という一大イベントの開催を予定しています。

「高校・大学・仕事・社会」をつなぐ大規模なイベントで、10年続けていこうと企画を進めています。まだ詳細は検討中ですが、日程と開催趣旨だけ先にご連絡しておきます。ご興味がおありの方は、スケジュール帳への記載をどうかよろしく願いいたします。

詳細は3月末（第1報）、5月（第2報）に改めてご案内する予定です。

■時期：2018年8月9日（木）・10日（金）

■定員：約1,000人

■参加対象者：大学・高校の教職員、関係者、学生生徒保護者、人材育成に関わる企業の関係者など。

■会場 武蔵野大学

■ねらい

- ・高・大・社接続のワンストップ・チャンネルの提供
- ・高・大・社を接続する「高校教育」「大学教育」「未来の働き方」「将来のキャリア形成」について情報提供をおこなう。
- ・大学・高校教員や生徒学生、保護者のための〈相互交流の場〉を提供。

■企画者による開催への思い

今日進める大学や高校の教育改革の着地点は2030年社会である。とくに人口減少をはじめとする日本社会のさまざまな側面における縮小に備える必要がある。

アクティブラーニングやキャリア教育、資質・能力の育成、それを仕上げていく学習成果の可視化、内部質保証、カリキュラムマネジメントの改革は、これまでの教授パラダイムを学習パラダイムへと

転換させる必要があり、最低 10 年はかかる。

学校数も大幅に縮小していくことが予想されるなか、力強くこの荒波を生き残る学校は、この改革を自身の学校文化のなかで捉え直し、新しい時代へと歩を進める学校である。

2030 年のその先は、もう一、二段階社会の縮小が加速する。

2030 年まであと 10 年少し。ここまでに教育の基盤体制を整え、対応していく。これが改革ビジョンである。

未来へのマナビフェスは、このために必要な先端の知識と実践、参加者同士でそれぞれの問題意識を交換し合う場を提供します。

■プログラム（予定：以下、敬称略）：

・テーマ：

- ・高大連携、高・大・社のトランジション
- ・アクティブラーニング、キャリア教育、評価・マネジメント

・導入講演：

- ・溝上慎一（京都大学教授）

・基調講演

- ・田熊美保・（OECD シニアアナリスト）
- ・白井俊（文部科学省初等中等局教育課程課教育課程企画室室長）

・ベーシック講義：

- ・松下佳代（京都大学教授）
- ・内村浩（元京都工芸繊維大学教授）
- ・田中研之輔（法政大学教授）
- ・山辺恵理子（都留文科大学講師）
- ・石井英真（京都大学准教授）

・大学事例セッション：

- ・石山恒貴（法政大学教授）
- ・館野泰一（立教大学助教）
- ・布柴達男（国際基督教大学教授）
- ・山田剛史（岡山大学教授）
- ・河井 亨（立命館大学講師）

・高校企画セッション

- ・三浦隆志（岡山県立林野高校校長）「探究（仮）」
- ・真下峯子（大妻嵐山女子中学高校校長）「義務教育との接続（仮）」
- ・吉野 明（鷗友学園中学高校校長）「組織的な長期的ルーブリック（仮）」
- ・下町壽男（岩手県立花巻北高校校長）「学校マネジメント（仮）」

- ・佐藤 透（桐蔭学園入試広報部長・経営企画室長）
「古典のアクティブラーニング型授業を通して高大連携（仮）」
- ・企業セッション：
 - ・田中聡（パーソル総合研究所主任研究員）

- ・参加者の大学・高校の合同ポスター発表セッション

- ・2日間のふり返しワークと小括講演：
 - ・溝上慎一（京都大学教授）「トランジション部会」
 - ・森 朋子（関西大学教授）「アクティブラーニング部会」
 - ・児美川孝一郎（法政大学教授）「キャリア教育部会」

- ・総括講演
 - ・中原 淳（東京大学准教授）

■未来の学びフェス実行委員メンバー

委員長 溝上 慎一（京都大学）

副委員長 中原 淳（東京大学）

委員（大学）

児美川孝一郎（法政大）、森朋子（関西大）、石井英真（京大）

委員（高校）

真下峯子（大妻嵐山女子）、吉野明（鷗友学園）

佐藤透（桐蔭学園）、下町壽男（岩手県立花巻北）

三浦隆志（岡山県立林野）

委員（河合塾）成田秀夫・近藤治・高井靖雄・榊中規男・木山さゆり

協力 一般財団法人 日本教育研究イノベーションセンター